

2019年度 事業報告書
2019年4月1日から2020年3月31日まで

特定非営利活動法人 レター・ポスト・フレンド・相談ネットワーク

1 事業実施の成果

2019年度は当NPOが発足して20周年を迎えたため、手紙(絵葉書)による緩やかな活動、当事者会「SANGOの会」の活動、会報「ひきこもり」の刊行といった既存事業全般を「札幌圏ひきこもりピア・アウトリーチ活動促進事業」として実施し、それぞれの事業を複合的に組み合わせる実践活動を試み効果があった。また前年度に引き続き札幌市から委託を受け「札幌市ひきこもりに関する集団型支援拠点設置運営業務:よりどころ」に取り組み、さらなる居場所活動の充実につなげた。さらにNPO法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会主催「第14回KHJ全国大会IN北海道」では共催団体として運営に関与し家族会、支援団体機関、当事者団体と協働して事業を推進し大きな成果を得た。

2 事業の実施に関する事項
特定非営利に係る事業

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
外出困難なひきこもり者と家族への相談支援活動事業	ひきこもり当事者や家族からの電話、電子メール、手紙、出張・来談による相談に対応し、必要に応じて他団体機関につなぐなどひきこもり当事者や家族が社会的に孤立しないような実践活動に努めた。2019年度は手紙相談延べ9件、電子メールによる相談件数は問い合わせを含め延べ218件。電話による相談件数延べ47件。来談による面接相談は延べ1件、出張相談1件(年度内継続2回実施)であった。	通年(年末年始を除く)	事務局ほか、出張相談先	4人	相談総数延べ277人	10
札幌圏ひきこもりピア・アウトリーチ活動促進事業/2019年度札幌市市民まちづくり活動促進助成金(さぼとほっと基金、ひまわりピアサポート基金) ①ひきこもり者の家庭へのアウトリーチ支援(訪問支援)事業 ②ひきこもり者とその家族等に役立つ広報出版事業 ③ひきこもり者の意欲と自信を育み、人間関係づくりを学習する当事者「SANGOの会」活動	本事業では他者との接触が難しいひきこもり当事者とひきこもりピアサポーター双方が心身に無理なく接点をもちひきこもり当事者が安心して地域とつながることが可能な下記に示す3つの実践活動を行った。なお定款上の事業展開では従来①②③が個別に扱われてきたが、2019年度は当NPOが発足して20年目にあたり、これまで続けてきた3つの事業を連動させる「札幌圏ひきこもりピア・アウトリーチ活動促進事業」を実施した。 ①手紙(絵葉書)によるピア・アウトリーチ活動(毎月2回郵送:40名対象)では事前申し込み者のほか、居場所「よりどころ」や「SANGOの会」で体調不良で参加できなくなった当事者などに絵葉書を送る試みも行った。 ②市民向け広報誌会報「ひきこもり」通信を発行(A4判全8頁年6回発行/紙媒体各100部印刷製本)し当NPOのHPに公開するとともにネット環境のない世帯や支援団体機関には紙媒体として郵送配布した。表紙のイラストは、ひきこもり当事者の高津達弘氏と当NPO賛助会員でもある小松英行氏に依頼し掲載した。広報誌では当NPO開設20周年の企画として「当NPO創設20周年～役員が語る」を連載し役員4人が団体活動を通して得た効用などについて述べたほか、当事者や親がサテライト事業や居場所事業などで発言した内容を網羅し当事者経験者の言葉を率直に伝える記事などを掲載した。 ③身近な地域におけるひきこもりの居場所づくり(当事者会活動)のピア・アウトリーチ活動として「SANGOの会」初心者/通常例会を広く周知して参加費無料で実施した。 また上記3つのひきこもりピア・アウトリーチ活動の理解啓発とともに当事者が積極的に事業に参画してもらうため「当事者活動への参画の呼びかけ」の案内チラシ(A4版片面カラー300部)を作成印刷し家族会、当事者会などで幅広く配布した。	①オリジナル絵葉書の郵送毎月2回程度 2019年4月1日～2020年3月31日 ②隔月6回発行 ③SANGOの会(2019年度初心者例会/通常例会) 4月24日・9人 5月29日・11人 6月26日・10人/6月12日・4人 7月31日・10人 8月28日・10人/8月9日・7人 9月25日・10人 10月30日・11人 11月27日・13人/11月13日・5人 12月25日・10人 1月30日・10人 2月27日・8人 3月26日・7人 (4月,5月,7月～10月,12月～2月の通常例会は「よりどころ」に振替実施した)	札幌市ボランティアエリア活動センター活動室、研修室	7人	当事者20人(家族) 2019年度実績通常例会参加者延べ16人・初心者例会119人	203

<p>札幌圏ひきこもり地域拠点型居場所移行支援開発事業(2019年度公益財団法人日本社会福祉弘済会社会福祉助成金:研究事業)</p>	<p>本研究事業は当NPOと関係がある札幌圏内で、これまでひきこもりの実態調査は実施しておらず、地域で安心して集まることができるひきこもり当事者会の設置も見られない課題を抱える小樽市、苫小牧市、江別市の3地域を選定し、ひきこもり地域居場所移行支援開発モデル事業を実施した。事業を進めていくにあたり札幌圏の居場所支援に携わる当事者会・家族会・専門支援団体機関代表及び研究者10名による札幌圏ひきこもり地域拠点型居場所移行支援開発事業推進委員会を発足させ協議を重ねた。</p> <p>試行モデル事業では当事者会や家族会（ピアスタッフ）と専門支援団体（プロスタッフ）それぞれがこれまで培ってきたノウハウや強みを盛り込んだ①人づくり（当事者の思いを汲み取りやすい支援スタッフの形成）、②場づくり（当事者が参加しやすく、安心して一歩踏み出すことができる時空間の形成）、③方法づくり（当事者にとって心身に無理のない望ましい支援の形成）の各項目を明らかにし、政令指定都市である札幌市に拠点を置くだけでは当事者ニーズを満たすことができない北海道の広域な地域特性が抱える居場所移行（アクセス）への課題や厚労省ひきこもりの評価・支援に関するガイドラインが示すひきこもり支援の諸段階（A.家族支援から当事者本人支援への移行、B.当事者本人支援から集団支援への移行並びにC.集団支援から社会参加支援への移行）の課題解消に向けた具体的な対案を明らかにする目的で行った。</p> <p>試行モデル事業「ひきこもりサテライト・カフェ」への平均参加者数は小樽市で14.7人、江別市で27.8人、苫小牧市は最も多く32.8人だった。当事者経験者、家族、事業運営団体らが毎回話題提供者となり交流を深めた。小樽市は小樽保健所が協力運営し、江別市と苫小牧市では保健所のほか地域若者サポートステーション、地域活動支援センター、社会福祉協議会など複数の関係機関が事業運営に協力した。</p>	<p>2019年度ひきこもりサテライト・カフェ 小樽（第3水曜日） 4月17日,5月15日,6月19日,7月17日 8月21日,9月18日,10月16日,11月20日,12月18日,1月15日,2月19日（3月は新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止）</p> <p>苫小牧（第2木曜日） 8月1日,9月5日,10月3日,11月7日, 12月5日 事前検討会議 6月26日 7月26日 事後総括会議 2020年2月13日</p> <p>江別（第4木曜日） 7月29日,9月30日,10月18日,11月21日, 12月12日 事前検討会議 2019年5月8日 2019年6月5日 中間振り返り会議 2019年9月3日 事後総括会議 2020年1月22日</p>	<p>小樽市総合福祉センター 北海道苫小牧保健所、苫小牧市立中央図書館研修室・講堂/研修室 江別市総合福祉センター</p>	<p>11人</p>	<p>北海道内に住む当事者、家族10人～30人程</p>	<p>697</p>
--	---	--	---	------------	------------------------------	------------

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
前項の続き	<p>事業終了後、本研究事業のまとめとして各市で開催した際に回収した事後評価アンケートを集計分析し考察を交えた冊子「札幌圏ひきこもり地域拠点型居場所移行支援開発事業報告書」（A4判全41頁モノクロ平綴じ印刷製本300部作成）を刊行し、北海道内の主なるひきこもり当事者団体や家族会、ひきこもり支援関係団体機関に郵送配布を行った。</p> <p>同事業については新聞やジャーナル紙面において多数掲載された。6月20日付北海道新聞後志版に「サテライトカフェin小樽」について報道。6月8日付北海道新聞道央版に「サテライトカフェin江別」が共催団体と協力して実施されることについて報道。北方ジャーナル2019.7月号に「ひきこもりサテライト・カフェin江別」開催に向けて準備に尽力する江別市社協の櫻井耕平氏はじめひきこもり問題に取り組む当NPOが6団体機関と連携し相談カフェ事業を江別などで拡充することが伝えられた。7月6日付北海道新聞江別版に「サテライトカフェin江別」開催案内が掲載。北方ジャーナル2019.9月号に当NPOが主催する「ひきこもりサテライト・カフェin江別」初回の模様がニュースレターとして掲載された。8月3日付北海道新聞道央（苫小牧）版に「ひきこもりサテライト・カフェin苫小牧」第1回目の内容が報道された。</p>	前項の続き	前項	前項	前項	前項

<p>北海道ひきこもり当事者間連携活動促進事業(公益財団法人北海道地域活動振興協会令和元年ボランティア活動支援事業助成金)</p>	<p>2019年10月12日(土)-13(日)両日に開催されたNPO法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会主催「第14回KHJ全国大会IN北海道」に併せて当事者企画として「北海道ひきこもりカフェ」を実施し、ひきこもり当事者や経験者がゆるく集まり、日頃の疲れを癒し、似たような体験をもつ人たちとおしゃべりをするなかで、仲間から元気をもらいながら、それぞれの地域のひきこもりの理解を広げていくための知恵を出し合った。同カフェには当事者19名と関心を寄せる関係者5名が参加した。同カフェには大阪、青森、秋田など北海道外から参加した当事者があり北海道在住の当事者とともに対話し、地域の垣根を超えて交流することができた。</p>	<p>2019年10月13日(日) 13:00~16:00</p>	<p>北海道立道民活動センター「かでの2.7」 9階920会議室</p>	<p>3人</p>	<p>北海道内外に住むひきこもり当事者と関係者24人</p>	<p>30</p>
<p>ひきこもりピアサポート活動理解普及啓発リーフレット作成事業(北海道赤い羽根共同募金一般応募助成金)</p>	<p>当NPOは創設満20年を迎え団体活動も大きく広がった。これに伴い本事業では現行の活動状況に適合したリーフレットを新たに作成する事業に取り組んだ。リーフレットはA4サイズ三つ折りフルカラー印刷製本とし、アナログ紙媒体版と電子PDF版の二種を作成した。アナログ紙媒体版は1,000部作成し北海道内のひきこもり当事者会や家族会をはじめ主要な支援団体機関に配布し生活が困窮しインターネット環境のないひきこもり世帯に届くよう努め、電子PDF版については当NPOの公式ホームページやSNS等を通して掲示し幅広く一般市民に周知を図った。また今回作成するリーフレットは上下関係が生じやすい支援者とは異なるひきこもり当事者との対等性を重視した似たような体験を有する仲間同士が支え合うピアサポートがもっている強みや具体的な活動内容を地域で悩むひきこもり当事者やその家族にとってわかりやすく、また利用につながりやすくする創意工夫を凝らしながら作成した。</p>	<p>2019年11月1日~2020年3月31日</p>	<p>事務局</p>	<p>5人</p>	<p>北海道内に住むひきこもり当事者、家族、支援者など約1,000人</p>	<p>113</p>
<p>札幌市ひきこもりに関する集団型支援拠点設置運営業務:居場所「よりどころ」</p>	<p>前年度に引き続き札幌市は居場所「よりどころ」運営業務先として当NPOを選定し実施した。居場所「よりどころ」は、札幌市内近郊に在住するひきこもり当事者とその家族を対象にし専門機関の「札幌市ひきこもり地域支援センター」との協同により「居場所機能」と「相談機能」「学習機能」を併せ持つ地域拠点として、当事者会並びに家族会を2019年4月から2020年2月まで毎月各2回開催した(なお2月の一部と3月すべては新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した当事者会・親の会がある)。本業務にはひきこもり経験を有する1名の運営統括支援員と7名の経験者ピアスタッフ(固定スタッフ4名+補助スタッフ3名)に加え2名の家族ピアスタッフの計14名体制で取り組んだ。 また「よりどころ例会外企画」として8月9日に円山動物園(参加者7名)、11月13日札幌市青少年科学館を見学(参加者5名)し参加者同士の交流も図った。入館利用料については当NPOとして札幌市と公文書による無職当事者の入園料減免措置の正式な手続きを踏んで「よりどころ」運営業務計画して実施した。北海道内外から行政・支援団体の見学があり、4月22日は青森市議会議員、12月16日はKHJ全国ひきこもり家族会連合会の委嘱を受けた大阪の「NPO法人ウィークタイ」の泉氏、横浜で居場所活動を行う「ひき桜in横浜」のtoshi氏の視察があり交流を深めた。当事者会の来所人数は計22回で延べ288人。親の会の来所者人数は計21回で延べ437人。事業の総括として最終報告書(A4判全42頁)を札幌市に提出した。 同事業に対する反響も多く6月29日北海道新聞暮らし報道部が取材した「ひきこもる中高年と支援の輪」の連載二日目に「よりどころ」で当NPOのピアスタッフとして活動する大橋伸和氏のほか、参加者2名が生きにくい現状を語る内容が掲載された。また7月10日STV「テレビどさんこワイド」夕方ニュース特集では居場所「よりどころ」に参加する30代当事者がメインで登場したほか、厚生労働省が関与する月刊「厚生労働」2019年12月号にも大きく「よりどころ」が取り上げられた。</p>	<p>当事者会:毎月第1第3月曜日 13:30-16:00 親の会:毎月第2第4月曜日 13:30-16:00 2019年度当事者会 4月1日,15日,5月6日,20日,6月3日,17日,7月1日,15日,8月5日,19日,9月2日,16日,10月7日,21日,11月4日,18日,12月2日,16日,1月6日,20日,2月3日,17日 (3月2日,16日の当事者会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止) よりどころ例会外企画 円山動物園見学 8月9日 10:00-14:00 札幌市青少年科学館見学 11月13日10:00-14:00 2019年度親の会 4月8日,22日,5月13日,27日,6月10日,24日,7月8日,22日,8月12日,26日,9月9日,23日,10月14日,28日,11月11日,25日,12月9日,23日,1月13日,27日,2月10日 (2月24日,3月9日,23日の親の会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)</p>	<p>北海道立道民活動センター「かでの2.7」和室や会議室</p>	<p>13人</p>	<p>北海道内に住むひきこもり当事者、家族、支援者など約40人</p>	<p>1,670</p>

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
<p>広く一般市民にひきこもり等を理解してもらうための講演会・イベント開催事業</p>	<p>ひきこもりの理解啓発のための研修会などに理事者が外向き、講演研修会講師やパネラーなどを担った。</p> <p>2019年度は田中敦理事長が前年度に引き続き前掲の「札幌圏ひきこもり地域拠点型居場所移行支援開発事業」で小樽市、苫小牧市に加え江別市において「ひきこもりサテライト・カフェ」のコーディネーターを務めた。その他5月25日、NPO法人北海道地域・自治体問題研究所主催総会シンポジウム「子ども・若者の生きづらさを考えるー実践を踏まえた私たちの提案」ではシンポジスト、6月9日開催「ひきこもり8050問題と命の危機予防を考える」ではコーディネーター。6月8日2019年度北海道社会福祉士会道北地区支部春季セミナー、7月20日砂川市で開催された公益社団法人北海道社会福祉士会道央地区支部講演会の講師、8月17日に開催された札幌学院大学名誉教授の二通諭氏主催による第42回ランチ会「ひきこもり<8050問題>への挑戦」で講師を務めた。</p> <p>「札幌市東区民生委員児童委員協議会研修会」(9月11日)「石狩市こども・若者支援地域協議会代表者会議」(9月26日)では吉川修司理事が経験談発表し田中理事長が併せて講演した。9月28日開催の第20回不登校・登校拒否を考える全道のつどい」では武田俊基理事、当NPOの大橋伸和ピアスタッフとともに登壇。10月1日開催の「岩見沢市男女共同参画プラン推進市民会議事業ステップアップ講座、10月2日開催「後志総合振興局保健環境部保健行政室不登校・青年期ひきこもりセミナー」の講師、北海道ソーシャルワーカー協会主催「2019年度ひきこもり支援セミナー①②③」はそれぞれ8月24日、10月5日、11月23日(函館市開催)に開催され講師とコーディネーターを務めた。また同協会が発行する協会ニュースNo.95号は「ひきこもり支援特集号」として生まれ田中理事長、鈴木祐子監事、吉川理事の寄稿文が掲載された。</p> <p>10月16日社会福祉協議会主催一日福祉セミナー、11月16日開催の札幌学院大学社会連携センターコミュニティカレッジ、12月11日開催の「第1回藤野地区福まちパワーアップ事業研修会」、12月23日開催の「札幌市自立支援協議会白石区地域部会研修会」、2020年1月30日開催「北海道困難を有する子ども・若者の支援連携研修会」、2020年2月1日開催の「稚内市ひきこもりに関する研修会」の講師。</p> <p>2020年2月21日東京で開催された「未来の居場所づくりシンポジウム」では第二部シンポジウムのシンポジストの一人として当NPOの活動内容を報告した。さっぽろ自由学校「遊」後期講座として3回シリーズとして開催された「ひきこもり問題を考えるー市民としてできること」第2回(2月26日)の講師を務め、同講座の第3回(3月25日)ではシンポジストとして当NPOピアスタッフ大橋伸和氏とともに登壇した。</p> <p>2019年度最大イベントとして10月12日ー13日に開催したNPO法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会(以下KHJ)主催の「第14回KHJ全国大会IN北海道」ではKHJ北海道「はまなす」と協働して現地事務局を立ち上げ、田中敦理事長はシンポジウムのコーディネーターを務めたほか当NPO役員やピアスタッフ、当事者が分科会で発題者として登壇した。</p> <p>7月4日開催の札幌市社会福祉大会にて札幌市を拠点にひきこもり活動に永年尽力された団体に贈られる社会福祉功労賞、社会福祉法人札幌市社会福祉協議会会長顕彰の表彰式が行われ団体を代表して田中理事長に賞状が授与された。また8月26日、32団体応募の中から選出された10団体による「サッポロスマイルアワード2019」に田中理事長が出席しプレゼンテーションを行った。</p> <p>10月22日付北海道新聞読者の「声」全道版に田中敦理事長が投稿した「ひきこもりの人に増税打撃」と題した文章が掲載。KHJジャーナルたびだち第92号(2019.11発行)に田中理事長が寄稿した「KHJ全国大会in北海道」の様子が掲載された。北海道精神保健協会「心の健康」第144号(2020.2刊行)特集:「ひきこもり」100万人時代を迎えてに「当事者団体活動から捉えるひきこもり支援ー当事者が主体的に参画するNPO活動を通してー」というタイトルで田中理事長が原稿を寄稿した。</p> <p>吉川理事は10月16日開催の「ひきこもりサテライト・カフェin小樽」で講師提供兼進行役</p>	<p>(2019年度)</p> <p>5月25日</p> <p>6月8日</p> <p>6月9日</p> <p>7月20日</p> <p>8月17日</p> <p>8月24日</p> <p>9月11日</p> <p>9月26日</p> <p>9月28日</p> <p>10月1日</p> <p>10月2日</p> <p>10月5日</p> <p>10月12~13日</p> <p>10月16日</p> <p>11月16日</p> <p>11月23日</p> <p>12月11日</p> <p>12月23日</p> <p>1月30日</p> <p>2月1日</p> <p>2月21日</p> <p>2月23日</p> <p>2月26日</p> <p>3月25日</p> <p>(居場所よりどころ、サテライトカフェの開催日は別項参照)</p>	<p>札幌市内の公共施設のほか各会場</p>	<p>5人</p>	<p>北海道内に住むひきこもり当事者と家族、支援者、一般市民 延べ500人</p>	<p>14</p>

「ひきこもりサテライト・カフェin小樽」(5月15日)「ひきこもりサテライト・カフェin江別」(12月12日)のほか居場所「よりどころ」家族会で話題提供したほか2月19日旭川市で開催されたNAGI当事者会5周年記念イベント「『ひきこもり』の人たちの集まる場所があるということ」でファシリテーターを務めた。同イベントには植西あすみ理事がスタッフとして加わった。また植西理事は2月23日美瑛町で不登校経験者らによる「さくら会2周年トークショー」を主催した。

居場所「よりどころ」家族会のピアスタッフとして毎回例会に参加した鈴木監事は家族会での話題提供、北海道ソーシャルワーカー協会主催「2019年度ひきこもり支援セミナー①」のシンポジスト、網走郡津別町のひきこもり家族会への支援に尽力した。

(当NPOが取り上げられた主なマスコミ報道、掲載誌など)

5月17日札幌テレビ道内ニュースで「中高年ひきこもり」が取り上げられ当NPOの絵葉書によるピア・アウトリーチ活動が紹介された。

8月22日北海道新聞朝刊全道版に「成人のひきこもり経験者が支援-道内自助会共感・助言・孤立救う」が報道された。

2月16日付北海道新道央版に「明日への扉を探して-不登校・ひきこもりの現場から」が連載され、サテライト・カフェin苫小牧について紹介された。

時事通信社が発行する「厚生福祉」第6504号(7月26日発刊)の「インタビュールーム

1128」で当NPOの取り組みについて田中理事長のインタビュー記事が掲載された。

9月29日付読売新聞朝刊「この道」欄に当NPOの手紙によるピア・サポート活動20年を記念した内容の記事が掲載。

12月20日共同通信ひきこもり取材班がまとめた「扉を開けて-ひきこもり、その声が聞こえますか」かもがわ出版から発売され、本書第4章において当NPOの多様な生き方の取り組みが取り上げられた。

厚生労働省が発行する「厚生労働」(2019.12月号)に居場所「よりどころ」についての記事が掲載された。

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
自信回復を狙いとした一般就労と福祉就労との間に位置する中間的労働(在宅ワーク)を構築する事業	一般就労では不安感や負担が多く、福祉就労ではもの足りない制度の狭間に置かれたひきこもり当事者が、当事者会活動のつながりから社会参加できるような新しい働き方を模索検討していく。2019年度は前年度に引き続き、札幌市ボランティア活動センターが発送するDM便郵送物丁合封入軽作業などを毎月2回実施したほか、公益社団法人北海道社会福祉士会道央地区支部からの依頼で案内チラシ印刷(隔月1回)や封筒印刷作業を実施した。	印刷製本作業 札幌市ボランティア活動センター 通年・毎月2回 北海道社会福祉士会道央地区支部通年・隔月1回	札幌市ボランティア活動センター研修室、印刷室	毎月3人～4人	札幌圏の市民ボランティア及び社会福祉士860人	45
他団体とのひきこもり支援ネットワークづくり事業	ひきこもりについての意見交換を積極的に行ない、他団体機関との交流を深め、ひきこもりの理解啓発、解決へ向けての方針策定をすすめた。 2016年度に発足した「北海道ひきこもり当事者連絡協議会」加盟した5つの当事者団体(旭川・NAGI、函館・樹陽のたより、帯広・リカバリースポット、札幌・すなはま、SANGOの会)との連携協力体制を維持し前掲の当NPOが共催して実施した「第14回KHJ全国大会IN北海道」に加盟団体のリカバリースポットの酒井一浩氏が講師パネラーとして参加してもらった。「札幌圏ひきこもり地域拠点型居場所移行支援開発事業」では小樽市保健所の協力を得た。また江別市、苫小牧市では保健所並びに地域若者サポートステーションや社会福祉協議会など多くの支援団体機関との連携と協力を得て事業を実施した。 「第14回KHJ全国大会IN北海道」では13名の市議・道議・国会議員が参加しひきこもりの課題解決に向けて政治に訴えかける機会ともなった。KHJ共同代表の伊藤正俊氏、KHJ理事でジャーナリストの池上正樹氏や宮崎大学准教授の境泉洋氏などKHJ本部との関わりもより深めることができた。 昨年度に引き全国のひきこもり支援の動向を伝えてきたさえきたい氏は、前掲の「ひきこもりサテライト・カフェin小樽」で話題提供者として参画し「北海道ひきこもりカフェ」ではKHJ青森県さくらの会会長でひきこもり経験者の下山洋雄氏と参加し札幌近郊在住の当事者との関わりを深め、当NPO活動に側面的に協力してくれた。 前掲の「札幌市ひきこもりに関する集団型支援拠点設置運營業務」居場所「よりどころ」では札幌市ひきこもり地域支援センターから相談担当者が派遣されピアスタッフと協働しながら参加者と交流を深めた。「よりどころ」の周知に際しては札幌市のホームページに開催日程が掲載されたほか「さっぽろ子ども・若者支援地域協議会」の公式ホームページにも案内が掲載されたことで当NPO単独ではなしえない広がりのある周知が可能となった。また前年度から引き続き「ひきこもりサポーター養成協議会」では、KHJ北海道「はまなす」とともに連携関係が続けた。さらに旭川の当事者会NAGIについては毎月1回の定例会に武田俊基理事が司会進行役として現地に赴き支援協力した。 2018年5月に発足したひきこもりの当事者団体の全国組織「NPO法人Node(ノード)」の代表理事でもある田中理事長は、Nodeの理事で一般社団法人ひきこもりUX 会議代表理事の林恭子氏とともにKHJ主催の「未来の居場所づくり」シンポジウムに出席。同シンポジウムには前掲の居場所「よりどころ」に見学に訪れたNPO 法人ウィークタイ代表理事泉氏も参加しKHJ理事の池上正樹氏が座長となり今後のひきこもり支援について建設的な意見交換を繰り広げた。	2019年4月～2020年3月	北海道立道民活動センター「かでの2.7」ほか各会場	5人	当事者、家族、実践者、学生、一般市民など延べ100人	10